



詩篇は、箴言や伝道者の書などとともに、「知恵文学」というジャンルに属するものです。この一篇では「正しい者」と「悪しき者」という二つを意識的に対比することによって、神のことばを喜びとする生き方を歌っています。

「喜びとする」ということは、しなければならないからするという、義務や束縛によるのではないということなのです。そのような喜びはどのようにして与えられるのでしょうか。ともに思い巡らしてみたいと思います。

① 私たちは、流れのほとりに植えられた木

“その人は 流れのほとりに植えられた木。
時が来ると実を結び その葉は枯れず そのなすことはすべて栄える。” 3

“正しい者はなつめ椰子の木のように萌え出で レバノンの杉のように育ちます。
彼らは主の家に植えられ 私たちの神の大庭で花を咲かせます。
彼らは年老いてもなお実を实らせ 青々と生い茂ります。” 詩篇92:12-

“御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。” Ⅰヨハ1:13-

“わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。” ⅢⅠⅡ15:5

② 風によって吹き飛ばされるもみがら

“悪しき者はそうではない。まさしく風が吹き飛ばす粉殻だ。
それゆえ悪しき者はさばきに 罪人は正しい者の集いに立ち得ない。
まことに正しい者の道は主が知っておられ 悪しき者の道は滅び去る。” 4-

“また、別の種は良い地に落ちた。すると芽生え、育って実を結び、三十倍、六十倍、百倍になった。…良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて受け入れ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ人たちのことです。” ⅡⅠⅡ4:8、20

③ 主の教えを喜びとする

“幸いなことよ 悪しき者のはかりごとには歩まず 罪人の道に立たず 嘲る者の座に着かない人。主のおしえを喜びとし 昼も夜もそのおしえを口ずさむ人。” 1-2

<話し合ってみましょう>

・「流れのほとりに植えられた木」と「風が吹き飛ばす粉殻」というたとえで語られていることについて話し合ってみましょう。